

価値あるお金の使い方

京都府・洛南高等学校附属中学校 2年 大上 紗英

私の一日は、朝起きて、日めくりカレンダーをめくることから始まる。部屋に飾ってあるものは、私のお気に入りの、相田みつをのカレンダー。数年前、相田みつを美術館へ行ったときに母に買ってもらったもので、彼の、深く心に訴えかける魅力的な言葉に一目惚れした。その言葉に、“今日もがんばろう”と元気づけられる。

18日。この日の言葉は「かねが人生のすべてではないが有れば便利 無いと不便です 便利のほうがいいなあ」^注 というものである。確かに、お金があれば好きなこともできるし、好きなものも買える。しかし、私は、無駄のない活きたお金の使い方をしているだろうか。この作文を書くにあたって、お金について少し立ち止まって考えてみることにした。

まず、お金とは。お金は、日常生活において必要不可欠なものだ。最重要である衣食住に加え、私たちのような学生が教育を受けるのにもお金は必要である。毎日、何不自由なく生きていて、お金の大切さをつつい忘れてしまう。しかし、このお金は、親が一生懸命働いてくれたおかげで使うことができるのであり、源泉のように自然と湧き出てくるものではない。だからこそ、こうして、お金に困ることなく健康に生きていられることに感謝して過ごさなければならぬ。

続いて、お金を使う機会について考えてみよう。私たちが使うお金は、生きていくために最低限必要とされるお金だけではない。私にとっては、旅行することや好きなアーティストのコンサートに行くことは趣味に使うお金といえる。私は旅行が好きで、この夏は東京へ行って歴史的建造物を拝観し、それぞれの建造物について理解を深めるつもりである。旅行をするのにはお金がかかるが、旅行をしなくても生きていける。むしろ、一時的な楽しみや気分転換に過ぎないと言われると、その通りかもしれない。だが、旅行はお金では買えない知識

や経験をもたらし、視野や見解を広げてくれる。普段の生活では味わえない思いを旅行先で感ずることだってあるだろう。コンサートでは、好きなアーティストの創り出す音楽に心を満たされ、とても幸せな気持ちになれる。また、自らの感受性や創造性を豊かにしてくれる。そういった点では、娯楽として使うお金も大切なのではないだろうか。

また、お金を使うにおいて、“使い方”が重要となってくる。旅行で使った5万円。コンサート代の1万円。中学生の私には大金ともいえる金額だ。しかし、多くのお金をかけることによって得られることは大きい。記憶は心に深く刻まれ、一生の宝物となる。だから、私はこのようなお金の使い方を一切無駄だと感じない。それに対し、安売りセールで衝動買いしてしまったものの、放りっぱなしにしてある200円のシャーペン、50円のメモ帳。結局一度も使わないまま、机の上に転がっている文房具は多くある。それらを見るたび、なんだか悲しい気持ちになる。このまま必要とされずに古くなっていくのだと思うと、一つ一つの金額は安いにしても買ってしまったことを後悔せざるを得ない。人それぞれ、お金に対する考え方や価値観は異なるため、個々人がどう思うかは分からないが、私は“心を育み自身を成長させてくれるもの”に本当の価値を見出している。無駄なものを極力出さず、自分のためになることにお金をかけたいものだ。

もし、ここに1万円あって、あなたが自由に使ってもいいと言われたら、どのように使うだろうか。映画を観に行く人や、ショッピングを楽しむ人もいるだろう。すぐには使わず、本当に必要なときのために貯金する人だっているはずだ。どちらにせよ、自由なお金の使い方の中で大切なのは自分の満足感である。後になって自分の情けなさに気付くのはお金を上手く使えていない証拠である。相田みつをの言葉からも「便利」とされるお金だが、意味のないお金に価値はないから、一概に「便利」とは言えないのかもしれない。でも、だからこそ、本当に「便利」だと思えるようなお金の使い方をするべきだと考えることができる。

最後に、目指すべきお金の使い方とは何か、自分なりに考えてみた。大切となってくることは、自分や人の役に立つことにお金を使おうとする姿勢である。将来の自分のために投資をするのは、より良い自分自身への期待であり賢いお金

の使い方といえる。また、人のためにお金を費やすことも素晴らしいと思う。

今、私の財布の中には3,800円ある。このお金をいかに有効に使えるか、少し楽しみになってきた。

(注) 相田みつを『こころの暦 にんげんだもの』相田みつを美術館、2005年

